

# 名古屋文理大学紀要 編集、投稿・執筆規定

## 編集規定

1. 本誌は名古屋文理大学機関紙であり、「名古屋文理大学紀要」と称する。
2. 発行は年1回3月に行う。
3. 本誌の編集は研究委員会（紀要編集小委員会）が行う。
4. 掲載する論文は、総説、原著論文、ノート、調査報告、研究資料など、研究委員会（紀要編集小委員会）が認めたものである。
5. 投稿論文のうち、ヒトを研究対象とした論文は名古屋文理大学または各機関における研究倫理委員会の、また動物実験を含む論文は名古屋文理大学または各機関における実験動物委員会等の審査を受け承認されたものであることとする。
6. 投稿論文は研究委員会（紀要編集小委員会）が審査し、その可否を決定する。なお、原則として、投稿論文は研究委員会（紀要編集小委員会）が依頼する査読者が査読を行う。
7. 執筆者は別に定める投稿・執筆規定を遵守する。
8. 原稿印刷に関して特に費用を必要とするものは執筆者の負担とする。
9. 本誌に掲載された論文の著作権は、名古屋文理大学に帰属する。著者は投稿論文が電子データとして公表されることを承諾する。ただし、著者が自分の論文を複製・転載等のかたちで利用することは自由である。

## 投稿・執筆規定

1. 投稿論文は未公開のものに限る。
2. 投稿者は、名古屋文理大学の専任教員または非常勤教員、および専任教員または非常勤教員と連名の学外者のものとする。ただし、学外のもの場合は研究委員会（紀要編集小委員会）の承諾を受けることとする。
3. 名古屋文理大学の非常勤教員が単独または学外者と連名で投稿する場合、および学外の者が本学の専任教員との連名でなく投稿する場合には投稿料を徴収する。投稿料は掲載に必要な実費を基準とする。
4. 原稿は文書作成ソフト等を用いて作成するものとし、用紙設定はA4とする（40字×36行）。
5. 投稿論文の長さは仕上がりで10ページ程度を目安とする。なお、図表、写真などもこれに含むものとする。
6. 投稿論文は完成原稿とする。
7. 原稿の第1頁には、表題、英文表題、著者名、論文要旨（論文が日本語の場合には日本語要旨に英文要旨を加えることが望ましい）、日本語と英語のキーワード（3～5語）を記すものとする。
8. 投稿者が名古屋文理大学の非常勤教員および学外の者の場合には、その所属を脚注に明記する。
9. 図表は挿入箇所を明示して、原稿の終わりに入れる。また、刷り上がりの大きさを明記する。
10. 注、引用文献、参考文献をつける場合は、論文の最後に注、引用文献、参考文献の順で列挙することとする。
11. 注は、文書中に注1) のように番号を記す。  
例：——といわれている<sup>注1)</sup>。
12. 引用文献については、著者名、著書名、出版年、論文等の場合は、号数、巻数などの詳細を記すこととする。引用順に1) のように一連番号をつけ引用文献にまとめる。巻一号は太字とする。  
例：——について多くの報告<sup>1)</sup>がある。

### 引用文献書式

和文雑誌の場合：著者名、論文表題、雑誌名、巻一、号、最初頁—最終頁（発行年）。

例：中島秀之、橋田浩一、松尾豊、ITと社会を繋ぐ認知科学、認知科学、14-1, 31-38 (2007)。

単行本の場合：著者名、書名、第何版、発行所、最初頁—最終頁（発行年）。

例：山崎正和、柔らかな個人主義の誕生、16版、中央公論社、72-73 (1985)。

分担執筆の場合：著者名，章の表題，編者（編），書名，第何版，発行所，最初頁－最終頁（発行年）。

例：藤井義夫，文献学一般との関係，田中美知太郎（編），哲学の歴史，重版，人文書院，431-432（1980）。

欧文

Journal articles: Authors, Title of articles, Name of Journal, **Volume**, First page-last page (Year).

例：Gross J, Kirk D, Heart precipitation of collagen from neutral salt solutions, *J Biol Chem*, **233**, 355-360 (1959).

Books : Authors, Title of chapter. In: Title of Book. Edition, Editors (eds.), Publisher, First page-last page (Year).

例：Ramachandran GN, Ramakrishnan C, Molecular Structure, In: Biochemistry of Collagen. Ramachandran GN, Reddy AH (eds.), Plenum, 45-81 (1976).

website からの引用の場合

和文

例：稲村理、引用文献の書き方について、

<http://nagoya-bunri.ac.jp/~works/kakikata.html> より2006年8月25日検索

欧文

例：Smith T, Bush R, Gore A, Role of reference elements in the selection of resources, *Journal of Bibliographic Research* (2006). Retrieved August 25, 2006 from <http://nagoya-bunri.ac.jp/~works/akikata.html>.

13. 引用しない文献等については、参考文献として引用文献の後にまとめて記載する。
14. 句読点は、，（全角カンマ）と．（全角ピリオド）を使うこととする。
15. 投稿先は、研究委員会（紀要編集小委員会）とする。

平成20年6月19日 研究委員会改訂

平成25年4月1日 研究委員会改訂